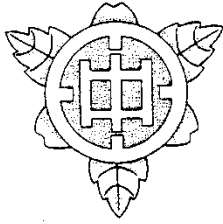


学校だより



6月号

令和3年5月31日

さいたま市立田島中学校

〒338-0837

さいたま市桜区田島10-13-1 TEL 048(864)3451

<http://tajima-j.saitama-city.ed.jp/>

【学校教育目標】

きれいな学校・調和のとれた人づくり

- 自ら学ぶ生徒（知性を磨く）
- 心豊かな生徒（感性を研ぐ）
- 活動力のある生徒（体を鍛える）

多様性を受け入れる

校長 市川 敏行

今年1月、文部科学省において「令和の日本型学校教育」について審議され、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の中で育むべき資質・能力として、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることが示されました。この中で特に私が注目したのが「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら」という部分です。

「あの人は自分と違う」、「自分とは合わない」。子どもの多様化が進むことは、いじめの原因の一つと考えられます。でも、人は違いがあって当たり前なのです。他者を認め、思いやりのある言動の「心の教育」の推進を図り、いじめ、不登校のない学校づくりを目指すことは本校の教育目標の一つです。

私は、平成9年から日本人学校の教員としてマレーシアに3年間在住していました。マレーシアは人口の6割をマレー系、3割を中国系、1割をインド系が占める他民族国家です。公用語はマレー語ですが、私自身マレー語を使用する機会はほとんどありませんでした。英語が準公用語として広く使用され、マレー語とともに共通語の役割を担っています。宗教も人種によって違います。イスラム教が国教であり、マレー系を中心に広く信仰されていますが、中国系には仏教徒、インド系にはヒンドゥー教徒が多く見られます。

マレーシアの素晴らしいところはここです。文化や宗教の違いから紛争にまで発展する国が多い中、マレーシアの人々は、多文化を受け入れ、尊重し発展してきました。中国系は中国語を、インド系はタミル語を使いますので、皆が理解できる英語を積極的に使用し各民族間の融和を保っています。互いの宗教や祭りを大切にする、実際に首都クアラルンプールにはイスラム教のモスク、仏教の寺院、ヒンドゥー教の寺院、実に色とりどりです。また、日本人の勤勉さ、規律を重んじる態度、協調性などをマレーシア企業に取り入れようと日本の企業を積極的に招き入れ経済発展を促進させています。もちろん、日本の文化や習慣に対しても寛容でした。

国際社会の中で急成長してきたマレーシアの成功の一因として、多様性を受け入れ活用したことがあげられます。中学生においても、「予測困難な時代」を乗り越えるために、多様な人々と協働する能力が求められています。その第一歩として、多様性を受け入れる意欲や態度を養うことが必要ではないでしょうか。自分とは違う何かを認め、受け入れ、尊重できる、そんな大きな生徒を一人でも多くはぐくみたいと考えます。